

## 高等学校名の変化

山口 倬史

### はじめに

全国都道府県立高等学校の校訓調査結果を「校訓に見る教育理念解明の探索」と題して、発表してから二十五年が過ぎた。

幸い、本年度研究費を頂くことができた。そこで、二十五年前に調査した校訓と、平成に入り、新設もしくは統合・改編等されて開校した都道府県立高等学校の校訓とを比較・検討したく調査を開始した。

この調査にあたって、四十七都道府県教育委員会に、平成元年度から平成十九年四月までに、新設もしくは統合・改編等されて開校した高等学校名の調査を依頼した。

早速、四十七都道府県教育委員会から回答を頂くことができた。その学校名を見ながら、二百九十八の高等学校にアンケート用住所・学校名を書く中で「学校名」にも変化があるのではないかと思った。

そこで、前回調査した高等学校名を調べてみた。その結果、学校名にも大きな変化があることが分かった。

だからこの際、校訓のアンケート用紙が回収されるまでの間に、「高等学校名の変化」と題してまとめてみることにした。

このように、校訓調査から、校名の変化に気付かせていただいた全

国四十七都道府県教育委員会に感謝したい。また、研究費を頂いたことと、前回と今回、合わせて全国都道府県立高等学校の二千六百八十三校の校訓を調査することができる。これも研究費を頂いた賜物と感謝している。

### 一、学校名の変化について

「はじめに」という書き出しに、学校名に変化があると書いた。

その変化について、前回調査（昭和五十七年）の、全国都道府県立高等学校から回答頂いた普通科千百十八校、工業科二百九十四校、商業科百九十三校、農業科百八十七校、水産科三十八校の計千八百三十校の校名と、今回調査する全国の都道府県立高等学校二百九十八校の学校名を対象に、顕著な変化を整理した。

#### (一) 変化点

前回調査の学校名では、普通科千百十八校中、全て〇〇高等学校、もしくは〇〇第一（〇〇）は、地域名、もしくは地域名プラス第一、中央、女子、東、西、南、北）高等学校等で普通科と判別できた。

工業科については、二百九十四校中九パーセントにもなる二百九十一校が、〇〇工業高等学校であった。〇〇工業高等学校という高校名でなかった三校は、明治三十一年設立の香川県立高松工芸高等学校と大正九年設立の都立化学工業高等学校、昭和四十三年設立の大阪府立食品産業高等学校のみであった。

商業科については、百九十三校中全てが〇〇商業高等学校、もしくは〇〇女子商業高等学校である。

農業科については、百八十七校中〇〇農業高等学校が百四十二校、

○農林高等学校が二十四校、○農芸高等学校が十校、○園芸高等学校が九校、○農産高等学校が一枚、○蚕高等学校が一枚で、学校名のみで大学科となる農業科と判別できていた。

水産科については、三十八校中全てが○水産高等学校であった。だから、前回調査の学校では、学校名だけで、普通教育を主とする普通科、専門教育を主とする工業科、商業科、農業科、水産科としてまとめることができた。しかも、設置されている小学校についても予測できた。しかし、今回調査している学校名だけでは、特に専門教育を主とする工業科、商業科、農業科なのか、設置されている小学校が予測できなくなってきた。このことから、平成に入ってから開校した学校名は多様化し、学校名の多様化が高校生の進路多様化を象徴しているかのように思える。

以下、学校名の顕著な変化点を上げ、どのような学校名になっているかを列記する。

①「カタカナ、ひらがな」の学校名が出てきた

前回の調査では一枚。今回は十三校。

前回の一枚は、昭和三十九年一月設立の青森県立むつ工業高等学校。

今回の十三校は、福島県立いわき光洋高等学校、同じくあさか開成高等学校。栃木県立さくら清修高等学校。群馬県立太田フレックス高等学校。山梨県立ひばりが丘高等学校。岐阜県立華陽フロンティア高等学校、同じく東濃フロンティア高等学校。大阪府立北摂つばさ高等学校、同じく門真なみはや高等学校、枚方なぎさ高等学校、かわち野高等学校。福岡県立ひびき高等学校、同じくありあけ新世高等学校。

②「〇〇館高等学校」という「館」がつく学校名が出てきた

前回の調査では二枚。今回は十二枚。

前回の二枚は、明治十二年七月設立の広島県立福山誠之館高等学校、明治十八年五月設立の福岡県立修猷館高等学校。

今回の十二枚は、宮城県立築館高等学校。山形県立上山明新館高等学校。栃木県立学悠館高等学校。埼玉県立進修館高等学校。新潟県立正徳館高等学校。長野県立中野立志館高等学校。兵庫県立三田祥雲館高等学校。福岡県立門司大翔館高等学校。同じく福岡講倫館高等学校、育徳館高等学校、浮羽究真館高等学校。鹿児島県立川薩清修館高等学校。

③「〇〇学園(院)高等学校」という「学園(院)」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇枚。今回は六枚。

今回の六枚は、秋田県立横手清陵学院高等学校。山形県立霞城学園高等学校。三重県立昴学園高等学校、同じくあけぼの学園高等学校。広島県立芦品まなび学園高等学校。福岡県立門司学園高等学校。

④「〇〇総合(学園)高等学校」という「総合(学園)」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇枚。今回は大幅に増加して三十一枚。

その三十一枚は、青森県立尾上総合高等学校。岩手県立紫波総合高等学校。茨城県立江戸崎総合高等学校。群馬県立安中総合学園高等学校。埼玉県立滑川総合高等学校。千葉県立幕張総合高等学校。都立葛飾総合高等学校、同じく久留米総合高等学校、晴海総合高等学校、つばさ総合高等学校、杉並総合

高等学校、若葉総合高等学校、青梅総合高等学校。神奈川県立神奈川総合高等学校、同じく相模原総合高等学校、鶴見総合高等学校、横浜清綾総合高等学校、金沢総合高等学校、麻生総合高等学校、藤沢総合高等学校。新潟県立巻総合高等学校、同じく十日町総合高等学校、柏崎総合高等学校、佐渡総合高等学校。岐阜県立岐阜総合学園高等学校。三重県立いなべ総合学園大阪府立東住吉総合高等学校。兵庫県立武庫荘総合高等学校、同じく豊岡総合高等学校。福岡県立嘉穂総合高等学校。大分県立三重総合高等学校。

⑤ 「〇〇総合技術高等学校」という「総合技術」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、新潟県立上越総合技術高等学校。

⑥ 「〇〇工科高等学校」という「工科」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は十二校。

その十二校は、都立六郷工科高等学校。神奈川県立藤沢工科高等学校、同じく平塚工科高等学校。大阪府立淀川工科高等学校、同じく城東工科高等学校、布施工科高等学校、西野田工科高等学校、今宮工科高等学校、堺工科高等学校、茨城工科高等学校、藤井寺工科高等学校、佐野工科高等学校。

⑦ 「〇〇総合工科高等学校」という「総合工科」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、都立総合工科高等学校。

⑧ 「〇〇総合産業（技術）高等学校」という「総合産業」がつく学

校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は四校。

その四校は、神奈川県立神奈川総合産業高等学校。鳥取県立倉吉総合産業高等学校、同じく境港総合技術高等学校。広島県立総合技術高等学校。

⑨ 「〇〇産業高等学校」という「産業」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、山形県立新庄神室産業高等学校。

⑩ 「〇〇科学技術高等学校」という「科学技術」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は二校。

その二校は、都立科学技術高等学校。福岡県立田川科学技術高等学校。

⑪ 「〇〇国際高等学校」という「国際」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は四校。

その四校は、兵庫県立国際高等学校。奈良県立法隆寺国際高等学校、同じく高取国際高等学校。沖縄県立那覇国際高等学校。⑫ 「〇〇国際情報（学院）高等学校」という「国際情報（学院）」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は二校。

その二校は、北海道立札幌国際情報高等学校。秋田県立大館国際情報学院高等学校。

⑬ 「〇〇情報商業高等学校」という「情報商業」がつく学校名が出てきた  
 前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、奈良県立奈良情報商業高等学校。

- ⑭「〇〇農工科学高等学校」という「農工科学」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、埼玉県立秩父農工科学高等学校。

- ⑮「〇〇海洋高等学校」という「海洋」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、秋田県立男鹿海洋高等学校。

- ⑯「〇〇芸術総合学高等学校」という「芸術総合」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、埼玉県立芸術総合高等学校。

- ⑰「〇〇造形高等学校」という「造形」がつく学校名が出てきた

前回の調査では〇校。今回は一校。

その一校は、大阪府立港南造形高等学校。

- ⑱「地域名プラス漢字二文字」の学校名が出てきた

前回の調査では、大学科の普通科、工業科、商業科、農業科、水産科の各学校名は、大方、地域名を冒頭にもってきて〇〇高等学校、もしくは〇〇工業（商業・農業・水産）高等学校となっていた。しかし、今回は調査校二百九十八校という前回の回答校の十パーセントにも満たない調査校数で十九パーセントが、地域名プラス漢字二文字の学校名となっている。

なお、「地域名プラス漢字二文字」の漢字二字は、傍線部のことである。

前回普通科千百十八校の調査では、地域名プラス漢字二文字の

学校は十五校。今回は五十七校。

前回の十五校は、明治二十八年設立の長野県立諏訪清陵高等学校、昭和五十四年設立の長野県立諏訪向陽高等学校。明治三十年設立の広島県立庄原格致高等学校、大正十年設立の広島県立広島観音高等学校。明治三十五年設立の北海道立小樽潮陵高等学校、昭和三十九年設立の北海道立小樽桜陽高等学校、昭和四十七年設立の北海道立札幌北陵高等学校、同じく北海道立千歳北陽高等学校、昭和五十二年設立の北海道立札幌西陵高等学校、昭和五十四年設立の北海道立札幌東陵高等学校、昭和五十五年設立の北海道立札幌南陵高等学校。大正十年設立の石川県立金沢桜丘高等学校、昭和四十五年設立の石川県立金沢向陽高等学校、昭和五十二年設立の石川県立小松明峰高等学校。昭和四十八年設立の新潟県立新潟向陽高等学校。

その五十七校は、北海道立札幌白陵高等学校、同じく士別翔雲高等学校、名寄光凌高等学校、富良野緑峰高等学校、留萌千望高等学校、室蘭東翔高等学校、登別青嶺高等学校、釧路明輝高等学校。岩手県立花北青雲高等学校、同じく北上翔南高等学校。福島県立郡山萌世高等学校。茨城県立大子清流高等学校、同じく高萩清松高等学校。栃木県立日光名峰高等学校、同じく栃木翔南高等学校、足利清風高等学校。埼玉県立戸田翔陽高等学校。千葉県立勝浦若潮高等学校、同じく舞鶴桜が丘高等学校、茂原樟陽高等学校。神奈川県立横浜桜陽高等学校、同じく横浜南陵高等学校、横浜旭陵高等学校、厚木清南高等学校。新潟県立糸魚川白嶺高等学校。石川県立能登青翔高等学校、同じく七尾東雲高等学校。山梨県立富士北稜高等学校。長野県立木曾青峰高

等学校。岐阜県立土岐紅陵高等学校、同じく本巢松陽高等学校、海津明誠高等学校、益田清風高等学校。滋賀県立大津清陵高等学校。大阪府立枚岡樟風高等学校、同じく八尾翠翔高等学校、千里青雲高等学校。兵庫県立三田西陵高等学校、同じく西宮香風高等学校。奈良県立西和清陵高等学校、同じく大和広陵高等学校、榛生昇陽高等学校。鳥取県立米子白鳳高等学校、同じく鳥取湖陵高等学校、鳥取緑風高等学校。島根県立益田翔陽高等学校。岡山県立備前緑陽高等学校、同じく倉敷鷺羽高等学校。広島県立大崎海星高等学校。香川県立高松桜井高等学校。高知県立安芸桜ヶ丘高等学校。福岡県立博多青松高等学校、同じく福岡魁誠高等学校、大川樟風高等学校。佐賀県立唐津清翔高等学校。長崎県立島原翔南高等学校。宮崎県立延岡星雲高等学校。

ここで、漢字二文字に注目してみた。

(ア) 漢字二文字を付けた校数

五十七校中五十五校が、地名プラス漢字二文字の学校名である。

(イ) 五十七校中二校以上が、同じ二文字の漢字を使用した、漢字と学校数

○○翔南(三校)。○○翔陽(二校)。○○青雲(二校)。○○清陵(二校)。○○清風(二校)。○○樟風(二校)。

(ウ) 二文字の一字によく使われている文字

翔(十一校)。陵(九校)。陽(七校)。清(七校)。風(五校)。雲(五校)。青(五校)。緑(三校)。峰(三校)。樟(三校)。

これらの文字を広辞苑で調べてみると、多くの高校で使われる理由がわかるような気がする。しかも、校名には校訓とは違い、地域民の高校に対する願いが包含されているようである。

## 二、学校名の変化が意味するもの

社会の変化や中学校卒業予定者数の減少、一方高校進学者の進路の多様化等で、既存の普通科と専門教育を主とする課程だけでは、生徒一人ひとりの個性の伸長はもとより、社会の変化に対応することが困難になってきた。

そこで、新しいタイプの高等学校が誕生したと考えられる。

その新しいタイプの高等学校を、前述した学校名の変化点①～⑱に分類した校名から、次のように考察した。

(一) 主に普通科教育を施す学校として

① 「カタカナ、ひらがなの高等学校」

② 「○○館高等学校」

③ 「○○学園高等学校」

⑱ 「地域名プラス漢字二文字の高等学校」が考えられる。

(二) 多様な選択ができる学校として

④ 「○○総合(学園)高等学校」が考えられる。

(三) 個性を尊重し、個性を伸ばす学校として

⑮ 「○○海洋高等学校」

⑯ 「○○芸術総合高等学校」

⑰ 「○○造形高等学校」が考えられる。

(四) 新たな時代を担う多彩な人材の育成を目指す学校として

⑤ 「○○総合技術高等学校」

⑥ 「○○工科高等学校」

⑦ 「○○総合工科高等学校」

⑧ 「○○総合産業高等学校」

⑨ 「〇〇産業高等学校」

⑩ 「〇〇科学技術高等学校」が考えられる。

(五) 国際化に対応できる生徒の育成を目指す学校として

⑪ 「〇〇国際高等学校」

⑫ 「〇〇国際情報(学院)高等学校」が考えられる。

(六) 社会経済の動向とその処理等の専門者の育成を目指す学校として

⑬ 「〇〇情報商業高等学校」が考えられる。

(七) 農林業に関する専門者の育成を目指す学校として

⑭ 「〇〇農工科学高等学校」が考えられる。

以上のように、平成に入ってから開校した高等学校名から考察した。

だが、この考察はあくまでも考察で、この後、二百九十八校のアンケート回収で設置学科の内容が明らかになる。だから、この考察結果が今から楽しみである。

ところで、今なお高校中退者・不登校者が多い。しかも、勤労青少年、一般社会人等で高校教育を受けたいと望んでいる人も多い。

この希望をかなえるために、「学校教育法施行規則の一部改正及び単位制高等学校教育規程の制定について」という文部事務次官通達文書が、昭和六十三年三月三十一日付けで発せられている。

だから、今後、この通達を受けて、単位制高等学校が全国的に増加していくと思っている。

つぎ

研究費を頂けたことで、思いもしていなかった「学校名の変化」に気づかされた。そして、今までの普通教育を主とする学科、専門教育を主とする学科のみと思っていた学科の他に、普通教育及び専門教育を選択履修できる総合高等学校がこれほど多数校できていたことに高等学校の変化を感じた。本当に有難い発見であった。

(二〇〇七年十二月五日 受理)